

家畜

第159号
2024年 春号

家畜衛生情報



吾妻牧野の牛たち（島原振興局 H氏撮影）

県南家畜保健衛生所
(長崎県島原振興局農林水産部 衛生課、防疫課)

〒859-1415 長崎県島原市有明町大三東戊908-1
TEL:(0957)68-1177 (休日、夜間も転送電話対応)
FAX:(0957)68-2056
Eメールアドレス:s11340@pref.nagasaki.lg.jp

県南家畜保健衛生所 長崎県

検索

【QRコード】



新所長挨拶

この度、県南家畜保健衛生所長を拝命しました。6年ぶり4回目の勤務となります、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から本県の畜産振興並びに家畜衛生対策の推進にご尽力、ご協力いただき感謝申し上げます。

さて、長崎県では『「快適で儲かる農林業、快適で暮らしやすい農山村」を実現することで、それを見た若者が農林業を志し、地域で農林業の生計を成り立たせ、地域の賑わいを取り戻す』ことを目指す姿として、「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」を策定し、本県農林業の特色である「産地計画」の達成を目標としています。畜産においては、ICT技術を活用するスマート農業の推進等により生産性向上を目指すとともに、輸出の推進、飼料高騰対策にも取り組んでいるところです。

また、家畜衛生の分野におきましては、鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病が発生すると、畜産業はもとより関連産業や一般県民の生活にも影響が及ぶこととなります。国内においては今シーズンも発生した高病原性鳥インフルエンザや昨年8月に佐賀県で発生した豚熱のほか、韓国で発生しているアフリカ豚熱と口蹄疫への対策等緊張感をもって対処する状況が続いております。

このような家畜伝染病への対応として、発生防止のために飼養衛生管理基準遵守の徹底を畜産関係者と協働して取り組むことや、万一の発生時に被害を最小限に抑えるため、防疫マニュアルの改訂、防疫演習の実施といった防疫態勢のさらなる強化にも取り組んでいます。

当所としましても農場に寄り添いながら、家畜伝染病対策および生産性向上対策の強化を図り、安全な畜産物の安定生産等の収益性の向上に努めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。着任の挨拶とさせていただきます。

所長 濱口 芳浩

島原半島地域家畜伝染病防疫勉強会を開催しました

今年も新年度が始まり、人事異動により多くの職員が島原振興局に異動してきました。こうした転入職員をはじめ、関係する全ての職員が家畜伝染病の防疫作業に対応できるよう、4月12日に家畜伝染病防疫勉強会を開催しました。

島原振興局をはじめ、各市の担当部局など69名が出席し、家畜伝染病の発生状況や防疫マニュアルに記載された作業内容などについて確認しました。

家畜伝染病の防疫体制は、家畜保健衛生所だけでなく多数の関係者の協力のともに構築されています。

この防疫体制をスムーズに機能させるために、生産者の皆様に対しても、例年の農場巡回などの際に農場や埋却地の現状について聞き取り調査をさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

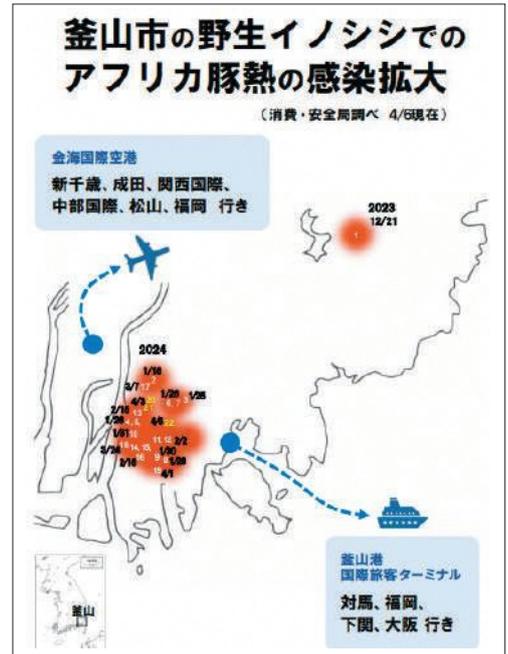


韓国釜山市におけるアフリカ豚熱の発生状況について

令和5年12月に韓国釜山市で野生イノシシのアフリカ豚熱（ASF）感染が確認されて以降、4月6日までに22例のASF感染個体が確認されています。ASFの国内侵入を防止するため、空港における水際防疫を強化するだけでなく、登山やキャンプなどを行う観光客を対象に注意喚起を行っています。

主な水際対策

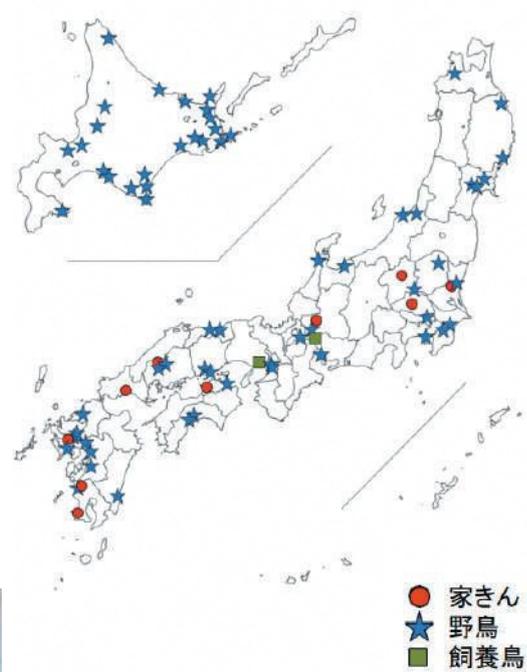
- ◆釜山から来る船舶に対して、全ての旅客に口頭質問を実施し、検疫探知犬の活動回数を増加
- ◆定期便が運航する海港で車両、自転車の消毒を実施
- ◆在外公館やインフルエンサーを通じて肉製品の持ち込み禁止や靴、自転車の泥を落とすことについて情報発信
- ◆訪日旅行客の立ち寄り場所を分析し、注意喚起やゴミ管理等を重点的に実施



令和5年～6年シーズンの鳥インフルエンザの動向

令和6年4月12日現在、農場での高病原性鳥インフルエンザの発生数は10事例です。令和4年～5年シーズンの84事例と比較すると少数ですが、野鳥の感染事例は全国的に発生していますので、注意が必要な状況には変わりありません。

鳥インフルエンザの流行シーズンは過ぎつつありますが、農場での病原体侵入防止対策は普段からの習慣が重要です。下記の「入出時対策」、「野生動物対策」、「入気口対策」を参考に、シーズン終了後も引き続きバイオセキュリティ対策に取り組んでください。



1 家きん飼養農場における発生予防の徹底

入出時対策

消毒・更衣前後における交差のない動線、明確な境界線の確保。
作業従事者のほか、外部事業者も対策を徹底



野生動物対策

農場内の整理・整頓、堆肥舎や鶏糞搬出口への覆いの設置。
一見隙間のなさそうな家きん舎でも入念に侵入口を点検



入気口対策

粉じん、羽毛等の取込み対策に野鳥避けの設置。フィルター設置も検討。
普段は目が届きにくい場所の対策も重要



アメリカで乳牛への鳥インフルエンザウイルスの感染事例が報告されています。これまで国内での発生は確認されていませんが、野鳥からの感染防止を図るため、衛生管理の徹底をお願いします。

家きん	9県	10事例
野鳥	28都道府県	147事例
飼養鳥	2県	2事例

水より安い栄養源はありません！

繁殖農家さんを巡回していてちょっと気になることがありました。それは、水を満身に与えられていない農場が結構あったことです。

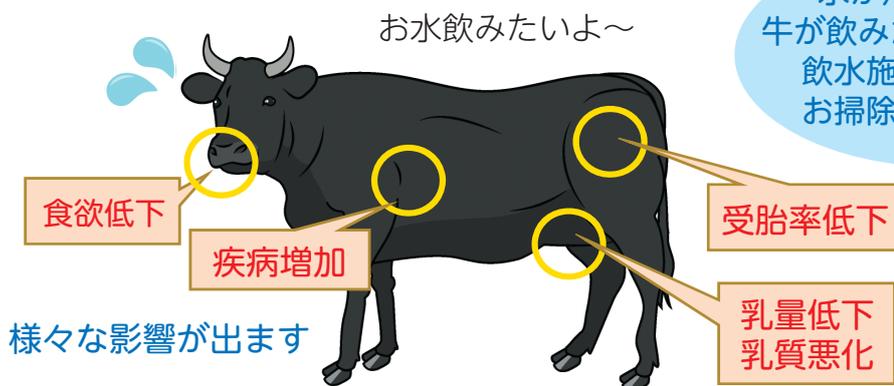
実は、**水は牛さんにとって一番安価**で、とても大切な、いわば**栄養源**です！この一番安くて大切な栄養源を満身に与えていないなんてもったいないので、是非、牛さんが満足するまで給与するようにしましょう。

○夏場の肉用牛の1日当たり飲水量

	体重	気温		
		10℃	21℃	32℃
育成牛	182kg	16.3L	22L	36L
妊娠牛	500kg	24.6L	32.9L	-
泌乳牛	408kg～	24.6L	64L	61.3L
肥育牛	454kg～	35.6L	47.7L	78L

(2022 日本飼養標準より抜粋)

飲水量が不足すると…



水が汚れていたら牛が飲みたがらないので、飲水施設はこまめにお掃除して下さいね



18か月齢以上の山羊、羊、鹿が死亡したときは、当所までご連絡ください

下記の条件を満たす**山羊・羊・鹿**はTSE（伝達性海綿状脳症）の検査を実施する必要があります。

- TSEを疑う症状を呈している。
- 18か月齢以上で死亡、または淘汰した。



<TSEとは？>

- ・牛海綿状脳症（BSE）と似た疾病で、山羊・羊のスクレイピー、鹿の慢性消耗性疾患などがあります。
- ・発生は極めてまれですが、「家畜伝染病」に指定されており、発生状況の監視対象となっています。

<TSEの症状>

●山羊・羊

搔痒感（かゆみ）、脱毛、無気力化、麻痺、運動失調、発育不良等

●鹿

体重減少、つまずき、震え、無表情、唾液分泌亢進、嚥下困難、食欲不振、渴きと排尿過剰、歯ぎしり、頭位異常、耳の下垂等



令和5年度病性鑑定実施状況

年間計263件の病性鑑定を行った結果、全畜種において呼吸器病が多くみられています。豚では呼吸器病に次いで急死の原因究明依頼が多く、豚レンサ球菌症が多くみられています。鶏では、急死の原因究明依頼が多く、鶏大腸菌症が多くみられています。

	牛 180件	豚 29件	鶏 54件
消化器	牛ロタウイルス病 (3) 牛コロナウイルス病 (1) 牛大腸菌症 (1) 牛コクシジウム病 (1)		
呼吸器	牛マイコプラズマ肺炎・ 牛パスツレラ症 (1) 誤嚥性肺炎 (1) 牛RSウイルス病 (1)	豚胸膜肺炎 (4) 豚パスツレラ症 (1) グレーサー病 (1)	鶏アスペルギルス症 (2) 鶏伝染性気管支炎 (1) 鳥パスツレラ症 (1)
急死		豚レンサ球菌症 (5)	鶏大腸菌症 (13)
複合病		豚胸膜肺炎・豚マイコプラズマ 病 (1)	鶏大腸菌症、伝染性ファブリキウス 嚢病 (1) 鶏大腸菌症、伝染性ファブリキウス 嚢病、鶏ブドウ球菌症 (1)
その他	牛伝染性リンパ腫 (17) 先天性奇形 (1) 血管過誤腫 (1) 乳房炎 (74) 血液検査 (6)		エンテロコッカス・セコラム感染症 (1)

令和5年繁殖集計結果について

令和5年1月～12月の黒毛和種繁殖牛に対する人工授精は、実頭数6,581頭、合計10,977回でした。そのうち、県有種雄牛の利用率は80.9%とほぼ前年並みでした。上位5頭はいずれも県有種雄牛であり、幸男や真乃介の利用が大きく増加しました。

県有牛の授精回数および利用率

内 訳	授精回数 (回)	利用率 (%)
県有牛	8,880	80.9
その他	2,097	19.1
合 計	10,977	—

利用率上位5種雄牛

順 位	種雄牛	授精回数 (回)	利用率 (%)
1 △	幸 男	2,713	24.7
2 ▼	金太郎	1,968	17.9
3 △	真乃介	1,049	9.6
4 ▼	勝乃幸	805	7.3
5 新	晴太郎	580	5.3